

# 花き

## 1 トルコギキョウ

### (1) 促成・無加温作型（5～7月切花）のほ場管理

#### ①温度管理

日射が強くなり、日中の施設内温度も25℃を超えてくる環境となります。施設の換気はできるだけ朝の早い時間帯に開けましょう。気温が高くなった日の午後は、早くにハウスを閉めると高温障害が出ることがあります。気温が下がった4時以降にしましょう。

日中は、換気扇や循環扇を使って空気を動かし、ハウス内の換気をします。開放部分は肩部分中心とし、直接株に風が当たらないように開放します。

#### ②枝整理

抽だいが進むと、地際部から分枝が発生してきます。分枝は品種によって多く発生するものと少ないものと品種によって差があります。

分枝を放置しておくとも主枝の生育が劣るので、早めに分枝を摘除します。

この作業は生育にあわせて数回に分けて行います。

#### ③ウイルス病防除対策

ウイルス病の主な症状は、えそ斑点や先端の曲がりなどがひどいものは、早めに抜き取ります。同時に、ウイルスを伝搬するアザミウマ類やアブラムシ防除に努めます。



ウイルス病の症状

### (2) 土壌水分管理

定植から花芽分化期までは、土壌表面が白く乾かない程度にかん水を行います。初期のかん水不足は土壌表面近くから発生する二次根の発生が抑制され、生育の遅れやボリューム不足などをきたし、生育の不揃いにもなります。

かん水は、晴れた日の午前中、気温が上がらない時間帯に行い、夕方には植物表面に水が残らないようにします。

マルチをしている場合も含めて、土壌水分状態の確認は土に指を入れるなどして確かめましょう。

### (3) 生理障害対策

葉先枯れ:草丈15cm頃から始まり、発蕾期まで続きます。品種によっても出やすい品種と出にくい品種があり、発生の程度も軽度のものから品質低下を招くものまでさまざまです。

発生要因は、カルシウム欠乏とされていますが、急激な成長に体内での移動が追いつかないことが原因とされています。

特に発生しやすい条件として、雨や曇天が続いた後の晴天時や6～7月の天候不順により、軟弱な生育をした場合に多く発生します。また、昼の湿度が高いと葉の蒸散量が少なく、カルシウムの吸収量が少なくなるため、葉先枯れが多く発生します。対策として、降雨や曇天が続いた後の晴天時はハウス内の換気を十分図り湿度を下げる取組みを行いましょ



葉先枯れ症状（チップバーン）

## 2 リンドウ

### (1) 据え置き（3～4年目）の間引き管理

萌芽数が7～8本以上で過繁茂となり、風通しや採光が悪く、軟弱徒長や病害虫発生の原因となります。また、仕立て本数が多いと茎が細く、節数、花数が少なく、切り花品質低下が発生します。切り花品質を高めるためには、間引きが重要となります。

- ① 仕立て本数は、株あたり6～8本を目標に行います。
- ② 間引き時期は、草丈20cm～30cm程度に伸長した頃行います。
- ③ 細い茎、弱小茎を摘みとりや折り取りで間引きを行います。



りんどう据え置きほ場

## (2) 葉枯病防除

病原菌の伝染方法はリンドウの枯死株に残って越冬し、翌春の伝染源となります。露地では、4月を除く全生育期間が適温となります。防除は、定期的な薬剤散布による防除に加え窒素肥料の施用量を控え、栽培環境の改善を図る必要があります。

## (3) 新植

気温が高くなると活着が悪くなるので、4月下旬～5月末が定植の時期となります。基肥を施用後ベッド幅は60～80cm、通路70～80cmとし、平らにならし十分湿った状態で黒マルチを被覆します。株間は15～20cm（早生15cm、中晩生20cm目安）の2条植えとします。セル苗は到着後速やかに定植します。

ジベレリン処理をした苗は1年目から抽台（花茎が伸長）するので、フラワーネットを1段張って株養成に努めます。

## 3 シャクヤク

### (1) 凍霜害対策

萌芽後－5℃以下、出蕾以降は0℃以下の低温に遭遇すると、ブラインド（花芽の未形成）、ブラスチング（花蕾の成長停止）が発生しやすくなります。低温対策としてべた掛け資材等を被覆して温度確保に努めてください。



シャクヤクほ場

### (2) 摘らい

定植1年目は株の養成を重点におくため、蕾は全て摘みを行います。

2年目は切り花を兼ねて株養成を行います。1株の切り花は2～3本以内とします。3年目以降は、萌芽数の75%以内を切り花し、残りは摘らいし樹勢の維持につとめます。なお、不要な脇芽を根元から完全に摘み取ります。キズが目立たない早いうちに行ってください。

### (3) 切り花の注意点

蕾が小さい状態で切花すると出荷後に開花しないことがあります。一方、開き過ぎも鑑観賞する日数が極端に短くなり問題です。目揃い会での指示を守って切り花してください。

### (4) 収穫後の管理

土壌の乾燥は根の生育を抑え、特に新芽への影響が大きく、発芽分化が阻害されます。敷きわら等を行い雑草と干ばつ対策を行ってください。

収穫後も除草、うどんこ病、灰色かび病等の防除を徹底し秋遅くまで健全な葉を保つよう管理してください。今年、斑葉病などの病気が見られたほ場は、必ず防除をし、葉や茎などの残渣はほ場外へ持ち出して処分してください。収穫後の管理により、翌年の収量、品質が確実に向上します。